

教職支援室便り (3月号)

令和6年 3月 8日 (金)

文責：教職支援室 曾我文敏

☎0985-20-4808

教職課程履修者の皆さんへ 卒業生からのエール

いよいよ卒業の月になりました。来月からは、社会人として、教員として職務に就くこととなります。職務遂行上の責任が伴うこととなりますが誠実な姿勢があれば、他者から必ず信頼を得ることができます。これからの人生においても、大きな目標や希望をもち、自分の生き方を創造していきましょう。

さて、1月号から、教職に就く皆さん、また今後教職をめざす皆さんへの、卒業生からのエールを紹介しています。今回は、宮崎県宮崎市立赤江小学校の、岡部日菜さんに寄稿していただきました。お忙しい中、本当にありがとうございました。心から感謝いたします。



令和5年3月卒業

宮崎県宮崎市立赤江小学校 岡部日菜さん

宮崎公立大学のみなさん、こんにちは。

私は現在、宮崎県の小学校で勤務しており、今年1年目です。小学校の頃の担任の先生に憧れて、小学校教員を目指しました。今は、小学校3年生の子どもたちの担任をさせていただいています。教師1年目を振り返ってみると、何もかもはじめてで分からないことばかりで、先生方についていくことに必死な毎日でした。そこで私は、分からないことは恥ずかしがらずに聞いていました。そうすることで、先生方は、とても優しく親切に教えてくださいました。先生方とたくさん話すことで、様々な考え方や視点を知ることができ、多くのことを学ぶことができます。教師1年目は謙虚な姿勢を忘れず、どんどん質問して教えていただいたことを、とにかくやってみることが大切だと思います。そして、自分が頑張ったことで、子どもたちの成長した姿を見るととても嬉しいです。これからも、学び続ける姿勢を忘れず、子どもたちと一緒に成長していけるように、頑張っていきたいと思っています。

子どもたちとの関わり方・指導の仕方で悩むこともたくさんありました。そのときに支えてくれたのは、同じ学校の同期や学年の先生方でした。一人で抱え込まずに、周りのみんなに助けてもらいながら、頑張ってください。心から応援しています。

3年生の皆さん、「教職特別講座」がんばっています！

これまでの教職特別講座等を受講しての、学生の皆さんの感想

10月からの特別講座や教職の講義、ボランティア活動など、これまでにさまざまな活動を経験させてもらって、教職に対する考えが深まっていきました。座学で学んだり、実際に中学校で授業を見学させてもらったりしていく中で、改めて教職の難しさを感じるようになりました。まず、学習支援ボランティアを通して、1つの学級だけでもさまざまな子がいることを改めて知りました。50分座って授業を受けることが難しい子や、勉強についていくことが難しく授業参加ができない子、決まった空席があるなど、さまざまな背景を持つ子が1つの同じ空間にいることを改めて実感しました。そこから、学級担任が全員を見守る、ということの難しさを再度感じました。また、特別講座で「子どもたちのために」「諦めない心」というお話を聞いて、中学校でのボランティア活動の経験と重ねたときに、自分が本当に子どもたちのために思って働いていけるのか、という不安が募っていくようになりました。しかし、「自分には無理だ」と考えるようになったわけではなく、ボランティア活動で訪問している中学校の先生方や、曾我先生のように、「子どもたちのために」という気持ちで学び続け、苦しいことや上手くいかないことがあっても、子どもたちの笑顔を見るだけで不安が吹き飛び、幸せな気持ちになれる、という考えをもった先生になりたいという気持ちは変わりませんでした。自分が今までお世話になった学校教育に、今度は自分が貢献して、子どもたちの豊かな人格形成に携わることが恩返しであるし、自分の生きがいだという考えは、特別講座を受けることによって、むしろ深まっていたと感じています。教育実習や採用試験まで残り少なくなってきましたが、教師になりたいという強い意志を持ったまま、全てのことに臨めるように頑張りたいと思います。

いよいよ今年の夏に教員採用試験の本番が近づいてきた中で、今の正直な気持ちはとても不安です。教員採用試験の日程が例年より前倒しになったり、それに伴って教育実習が前後したりするなど、予想しなかったことも多くありました。そして、これまでの大学での学習や教職特別講座を通じて、教員という職について多方面から考察すると、その責任の重みについて毎日のように考えさせられます。しかし、だからこそ教員という仕事の魅力についても、日々感じる事ができています。教職特別講座で、問題を解く中で、ただ試験のためということにとどまらず、教師力の土台となるような知識を得ることができています。採用試験まで、不安ではありますが、今は取り組むのみだと思い、教職特別講座でも必死に励んでいます。今では一緒に講座に取り組む仲間とも情報交換や支え合って、団結力が生まれていると思います。本番までにも教育実習があり、過密なスケジュールではありますが、春休みに自分の力を大きく蓄えていたいと思います。そのためにも、教職特別講座だけでなく、その前と後の予習復習、自分の考えを明確にすることなど、日々できることに取り組んでいきたいです。

教職特別講座を通して、ただ問題を解くだけでなく、他の人の感想や意見を聞くことができ、曾我先生のお話や各演習に関するニュースなどと照らし合わせながら、演習内容について深く考えることができるため、この講座を受講していてよかったと改めて感じました。現状としては、覚えることがたくさんで、正直全ての内容を完璧に覚えられるだろうかという不安が大きいです。何度も解き直し演習を重ねながら、教員採用試験に向け全力で取り組んでいきたいです。今後もよろしくお願いたします。

いよいよ春休みに入り、本格的に教員採用試験の勉強に打ち込んでいます。曾我先生に作成していただいた問題集を解き、答え合わせをしみんなと意見交換をする時間がとても有意義だと感じています。問題をこなして暗記するだけでなく、法律やガイドラインなどから印象に残っている部分、教員にとって大切な考え方は何かについて考える時間があるため、日々教員になることのモチベーションが上がっています。教職特別講座での討論の時間も含め、自分とは違う視点からの意見も取り入れて、教員に求められる資質・能力を高めていきたいです。これからも教職を学ぶ仲間と共に高め合いながら、一生懸命勉強に励みたいです！

これまで特別講座を受講してきて、教師とは、子どもたちの成長を支援することができる、やりがいがある仕事であると再確認しました。様々な法律、いじめや不登校問題、虐待等を学びながら、困難を抱える子ども達を守り支援するために、教師自身にできることを考えたり、保護者との連携や学級経営について友達と意見交換をしたりする中で、社会における教師の存在の大きさや教職教養の重要性、子どもたちに対する教育的愛情、教師の人間性が非常に大切であるということを実感しました。そして、将来、教師になることができたなら、子どもたちが安心して過ごすことができる、温かい学級や学校を作っていくことができるように、まだまだこれからの特別講座でも様々な演習を通して知識や教養を身につける必要があると感じます。だからこそ、まずは一人の教師として立派に子どもたちの前に立つことができるように、自分自身の人間性を高め成長し、自分にできることを考えながら、教職に対する理解をより深めていきたいと考えます。

特別講座では教職教養がしっかりとカバーできるので、そこで少し安心感をもっています。また、特別講座が始まったばかりの頃は、予習がとても大変でネガティブな感情を抱くこともありました。今では、予習を通して教師になる上で重要な知識を得ることができることに楽しさや喜びすら感じています。教員採用試験まで残り4か月となり、今は正直不安しかありませんが、毎日、私が今できる最大限の努力をしていきたいと思えます。

いよいよ本格的に教員採用試験に向けての対策が始まり、時間が無くなっていくのをひしひしと感じます。時間がない中で何をすればいいのか迷うときもありますが、今は一次試験に向けて問題を解きながらしっかり覚えていきつつ、教師としての心構え等を学んでいきたいと思えます。また、思っている以上に予習に時間がかかりますが、予習していく中で自分の感じたことや疑問に思ったことなど、ただ問題を解くだけでなく、色々考えながら解いていくのは思った以上に楽しく、これからも頑張りたいと思えますし、試験が終わってもずっと学んだことを覚えておけるような勉強をしたいと思えます。そして、特別講座以外の時間も有効に使いながら、頑張りたいと思えます。この春休みは勝負の時期だと思っているので、より一層気を引き締めて教員採用試験に向けて取り組んでいきたいと思えます。

道徳の教科化に思う！（シリーズ82）

平成29年の6月号から、「道徳の教科化に思う」をテーマに、道徳授業の本質的な在り方等について連載しています。

今回は、「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びを考える」をテーマに、その3として「人間としての弱さへの気付きと強さへの学びの、基本的な考え方を軸とした読み物教材の分析」についてまとめました。

◇ 人間としての弱さへの気付きと強さへの学びの、基本的な考え方を軸とした読み物教材の分析

「人間としての弱さへの気付きと強さへの学び」を軸とした、読み物教材の分析を行うためには、教師の教材を解く力（見抜く力）が求められる。教材を解く力（見抜く力）とは、人間としての弱さや強さに関わる、登場人物（特に主人公：以下同じ）の心の動きや、その心理的な背景を中心に、授業の「ねらい」を踏まえながら、教材を分析していく力である。

この分析の中では、登場人物の道徳的価値を実現できない（しようとしな）姿は、人間としての「弱さ」として、道徳的価値を実現できる（しようとする）姿は、人間としての「強さ」として捉えることができる。この2つのステージにおいて、教師は登場人物の気持ちや考えに寄り添い、自分との関わりの中でそれらを共感的に分析するなど、教材に入り込むことが重要である。具体的には、「教材分析5つの視点（読み込む視点）」を示すことにする。

「道徳の教科化に思う」曾我 2018 より（「資料」の表記は、「教材」に読み替える。）

主題のねらい達成のために選択された資料は、多くの価値を含み、複雑な構造をもっている。そこで、資料分析が必要となる。分析をすることにより、ねらいとする価値及び関連する価値がどのように含まれているか、資料のどの場面を中心に扱うか、資料をどのように提示するか等、初めて明らかになる。つまり、資料分析とは、資料の筋にそって内容構造と含まれる価値を明らかにし、それに対する児童生徒の思考を考え、発問等の教師のはたらきかけを構想するために行うものである。

この資料分析の基本的な考え方を踏まえ、さらに述べたいことは、授業者の資料を解く力（見抜く力）の重要性である。これは、授業づくりの大切な要素である。授業者は、価値を実現できる、できない主人公の心の動き、そして、それらの心理的な背景を中心に「ねらい」を踏まえながら、分析していくことが重要である。価値を実現できない姿は人間としての「弱さ」として、価値を実現できる姿は人間としての「強さ」として捉えることができる。この2つのステージにおいて、授業者は主人公の気持ちや考えに寄り添い、共感的に分析することが大切であり、資料に入り込む力量が求められる。この取組を重ねていくことで、教師の資料を解く力（見抜く力）が培われていく。さらには、読み物資料だけではなく、他の資料の活用力も向上するなど、道徳の授業力が向上する。

<教材分析5つの視点（読み込む視点）>

- 1 授業の「ねらい」を踏まえた上で、適切な教材であるか読み込む。
 - この教材を活用することで、「ねらい」に迫ることができるか。
 - この教材は、児童生徒の発達段階に適しているか。等
- 2 登場人物の表情や語調などを、映像化しながら読み込む。
 - 登場人物の心の動きに注視して、そのときの表情や語調などを想像し、その人柄や価値観等を把握する。

- 3 教材の文や言葉の中に秘められている、登場人物の気持ちや考えについて、想像しながら読み込む。
 - 登場人物の置かれている状況や背景等を踏まえながら、文や言葉に秘められている気持ちや考えを把握する。
- 4 児童生徒が、人間としての弱さに気付くことができる場面を特定し、発問を構想しながら読み込む。
 - 登場人物の心の葛藤などをもとに、児童生徒が人間としての弱さについて、自分との関わりの中で考えたり、多面的・多角的に考えたりするための発問を構想する。
- 5 児童生徒が、人間としての強さを学ぶことができる場面を特定し、発問を構想しながら読み込む。
 - 登場人物の道徳的価値を実現できる（しようとする）姿をもとに、児童生徒が人間としての強さについて、自分との関わりの中で考えたり、多面的・多角的に考えたりするための発問を構想する。